

ICOM 博物館定義見直しの動向

栗原 祐司（京都国立博物館副館長・ICOM 日本委員会副委員長）

ICOM における博物館定義見直しの動向

周知のとおり、ICOM 規約に定める「Museum」の定義は、MDPP (Standing Committee on Museum Definition, Prospects and Potentials : 博物館の定義・展望・可能性委員会) における検討を経て、2019 年 9 月に開催された ICOM 京都大会において以下の定義案に改正される予定だったが、長時間にわたる議論の末、採決は持ち越された。

Museums are democratising, inclusive and polyphonic spaces for critical dialogue about the pasts and the futures. Acknowledging and addressing the conflicts and challenges of the present, they hold artefacts and specimens in trust for society, safeguard diverse memories for future generations and guarantee equal rights and equal access to heritage for all people.

Museums are not for profit. They are participatory and transparent, and work in active partnership with and for diverse communities to collect, preserve, research, interpret, exhibit, and enhance understandings of the world, aiming to contribute to human dignity and social justice, global equality and planetary wellbeing.

(仮訳)

博物館は、過去と未来に関する批評的な対話のための、民主化を促し、包摂的で、様々な声に耳を傾ける空間である。博物館は、現在起こっている紛争や課題を認識し、それらを考察しつつ、社会のために託された資料や標本を保管し、未来の世代のために多様な記憶を保全し、すべての人々に遺産に対する平等な権利と平等なアクセスを保証する。

博物館は、営利を目的としない。博物館は、開かれた公明正大な存在であり、人間としての尊厳と社会正義、世界的な平等と地球全体の幸福に貢献することを目的に、多様なコミュニティと手を携えて収集、保存、研究、解釈、展示並びに世界についての理解を高めるための活動を行う。

ICOM 京都大会後、MDPP はメンバーを拡充し、2020 年 2 月に「MDPP2」と名称を変更して検討を再開したが、6 月に ICOM 会長辞任に伴い、MDPP2 の委員長及び 6 人の委員が辞任し、しばらく活動を停止していた。その後、執行役員会は、各地域と専門性をカバーしつつ定義の見直しに向けた検討体制を再構築することとし、12 月に ICOM Define (Standing Committee for the Museum Definition) が発足した。Lauran Bonilla-Merchav 氏 (コスタリカ) 及び Bruno Brulon 氏 (ブラジル) が共同委員長となり、21 人のメンバーのうちアジアからは元執行役員の Inkyung Chang 氏 (韓国) 及び Ana Maria Theresa Labrador 氏 (フィリピン) が選出されている。

ICOM Define は、民主的かつ透明性のある議論を進めるため、2022 年 8 月に開催予定の ICOM プラハ大会での新たな定義案の採決に向けて、18 か月の間に、以下の 11 のステップと 4 回の協議 (rounds of consultation) による方法論を提案した。スケジュール的には、2020 年 12 月にスタートし、2022 年 5 月に終了する。その間 ICOM 会員とはすべてのステ

ージで意見交換を行い、随時状況報告を行い、すべてのプロセスに係る資料は、ICOM ウェブサイトの会員ページで公開することとされている。

- ・ステップ 1 ICOM Define 発足、ウェビナー開催[2020年12月10日]
- ・ステップ 2 協議 1 京都大会後の議論のまとめ
[2020年12月10日～2021年1月10日]
- ・ステップ 3 協議 2 キーワード／コンセプト提案
[2021年1月10日～2021年4月10日]
- ・ステップ 4 協議 2 の定量及び定性分析 [2021年4月10日～2021年6月10日]
- ・ステップ 5 協議 2 の結論準備及び発表 [2021年6月10日～2021年7月10日]
- ・ステップ 6 協議 3 キーワード／コンセプト提案の評価
[2021年7月10日～2021年9月10日]
- ・ステップ 7 協議 3 のデータ分析[2021年9月10日～2021年11月10日]
- ・ステップ 8 ICOM Define のドラフト提案[2021年11月10日～2021年12月10日]
- ・ステップ 9 ICOM Define における提案の議論[2021年12月10日～2022年2月10日]
- ・ステップ 10 協議 4 提案の発表[2022年2月10日～2022年4月10日]
- ・ステップ 11 ICOM Define 最終報告[2022年4月10日～2022年5月10日]
- ・ステップ 12 ICOM プラハ大会で投票 (2022年8月20～27日)

ICOM 日本委員会におけるキーワード／コンセプト提案

ICOM 日本委員会では、前述のステップ 3 にあたる各国内委員会・国際委員会等からの新たな博物館定義に対する最大 20 のキーワードまたはコンセプト（アイデア、単語、フレーズ等）の提案募集を受けて、2月9日に会員向けに意見募集を行った。その際、ICOM の公用語は英語、フランス語、スペイン語であり、日本語だと個人によってニュアンスが異なることになるため、英語での提案募集とした。その結果、100 点以上の意見が寄せられ、ここから筆者及び福野明子（国際基督教大学湯浅八郎記念館館長代理）の両副委員長を中心に、東自由里理事（京都外国語大学教授）及び半田昌之事務局長（日本博物館協会専務理事）並びに井上由佳（明治大学准教授）、松田陽（東京大学准教授）の両氏を加えたメンバーで検討し、手続きの透明性を確保した上で約 50 のキーワードを抽出し、再度会員を対象に 4 段階（Very important, Important, Somewhat Important, Not Important）のアンケート調査を実施した。

その上で、3月27日に上記のメンバーがパネリストとなってオンラインでオープン・フォーラムを開催し、60名を超える参加者を得て、アンケートの結果を踏まえ、得票の多かった以下の 14 件を確定した。（アルファベット順）

accessibility, collection, communication, conservation, cultural heritage, diversity, educational opportunity, exhibition, inclusion, learning, preservation, research, respect, sustainability

残る 6 件については、アンケートの結果新たに提案されたものも含め、再度その場でアンケート調査を行った結果、以下の得票となった。これを受けて、cultural hub、dialogue、education、human rights を確定し、10 票を下まわるものについては、

パネリストで協議の上、well-being 及び equity を選考し、合計 20 件を確定した。なお、選考の方針としては、あくまで ICOM 日本委員会の立場からの意見であり、一昨年にアジアで 3 回目となる ICOM 京都大会を開催したことや、日本では博物館法において「博物館」の定義がなされていることなどを考慮している。

(得票数：1 人 3 票まで。43 件の回答。下線の 6 件を選考。)

cultural hub(23)、dialogue(20)、education(18)、human rights(10)、well-being(9)、future(8)、community involvement(7)、heritage(6)、peace(6)、equity(5)、equality(4)、permanent institution(4)、understanding(4)、security(2)、tangible heritage(2)

上記 20 件については、理事会において承認を得、4 月 20 日に ICOM 日本委員会として正式に ICOM 本部に送信した。現在はステップ 4 の分析を ICOM Define が行っているところであり、ステップ 5 の発表を経て、ステップ 6 の評価段階において、7 月以降に改めて各委員会等の意見が求められることになると予想される。引き続き会員諸氏の御協力をお願いしたい。